

提出日  
平成 31 年 1 月 11 日

## 2018 年琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ「パントゥーについて」

氏名・学籍番号：石川京佳・我如古美沙稀  
神里理子・山内隆太郎

所属学科：人文学部こども文化学科

## I. 初めに

宮古島市島尻地域で行われる悪霊払いの伝統行事（祭り）であるパーントゥは1993年に重要無形民俗文化財に指定されており、2018年11月29日には、国連教育科学文化機関（UNESCO）の無形文化遺産への登録が決定した。宮古島では平良島尻地区と上野野原地区の2地区でパーントゥが行われている。ここでは、平良島尻地区で行われた祭りについて語っていききたい。

## II. 研究の目的、動機

ゼミ内のメンバーに宮古島出身者が二人おり、二人を通してパーントゥという伝統行事の概要を聞き興味を持った。また、国連教育科学文化機関（UNESCO）の無形文化遺産に登録される見通しという情報を知り、さらに関心が高まった。パーントゥ開催の日は毎年変動があるが、狩俣出身の一人が地元の人を通して開催日を知ることができた。そこでパーントゥを体験し現地の人に話を聞くという調査に踏み切った。

## III. 研究方法、地域、期間

方法：①現地調査 ②文献調査 ③聞き取り調査

地域：宮古島平良島尻地区

期間：平成30年10月7日～10月10日

## IV. 結果

### 1. パーントゥ・プナハ

そもそもパーントゥとは宮古方言で異様な形相をしたものでお化け、鬼神、妖怪という意味である。プナハもしくはプナカというのは人々が寄り集まって行う祈願祭（お神酒による酒宴）のことである。（国選択無形民俗文化財記録作成『島尻のパーントゥ調査報告書』昭和60年3月発行 P.31 パーントゥの行動 平良新亮）

### 2. 島尻のパーントゥ

パーントゥは、全身泥だらけで仮面を持った来訪神という位置づけがされており、パーントゥに泥を塗られると悪霊を払うことができ、無病息災が約束されるといわれている。パーントゥの泥は「ンマリガー（産まれ泉）」という泉の底からとられるものである。「ンマリガー」は特別な泉でかつて産湯には必ずこの泉から汲んだ水が用いられたといわれている。また、一生の終わりの時にもこの「ンマリガー」の水を浴びせて葬りの用意をするといわれている。パーントゥは三体いて、それぞれ「ウヤ（親）パーントゥ」、「ナカ（中）パーントゥ」、「フファ（子）パーントゥ」という名前があり、仮面の形も一つずつ違っている。

### 3. 祭りの由来

今から数百年前に島尻集落の北の海岸にクバの葉で包まれた仮面が流れついていて、

その仮面を用いて、村の悪霊祓い（厄払い）の行事に用いたのがその始まりであると言  
い伝えられている。（DEE Okinawa『宮古島島尻地区の奇祭パーントゥ』）

#### 4. スマッサリ

パーントゥ・プナハの前に行われる「スマッサリ」という祭りがある。そこでは、厄  
払いを目的で行われるもので集落のところどころに藁で編まれた縄が張られる。この  
縄は、「ミーピツナ」と呼ばれ、縄の真ん中には豚の骨がくくりつけられている。「スマ  
ッサリ」の神事に「ミーピツナ」を張るのは、集落から厄払いをしたあと、その悪魔が  
舞い戻ってこないようにするためであるといわれている。また、パーントゥの体を覆う  
草はこの縄で巻きつけることになっている。この草の名前はキャンンという。（国選択  
無形民俗文化財記録作成『島尻のパーントゥ調査報告書』昭和60年3月発行 P.31 パ  
ーントゥの行動 平良新亮）

#### 5. パーントゥの現状

##### ・インタビューから

パーントゥ・プナハが行われる宮古島市字島尻の人口は約405人で、過疎化が進ん  
でおり宮島小も廃校になっている。そんな中このパーントゥ・プナハは盛大に行われて  
いる。祭り当日に、祭りの参加者にインタビューをした。地元の方は、10代から80  
代まで、」ほかにも、宮古島に移り住んだ本土の方、テレビ局の記者の方、カメラマン、  
観光客は20代から40代まで、様々な意見を聞くことができた。

まず、伝統行事のパーントゥだが、今と昔では徐々に変化してきていることが分かった。  
現在では、観光客も増え、参加人数が多くなっている。参加者は、観光客が半分を占め  
るといふ。そのため、パーントゥの地域の方との関わりが少なくなっており、地元の方  
からはさみしいという声も上がっている。また、観光客が増えたことにより観光客から  
の苦情やトラブルなどもあり、本来のパーントゥの激しさあ見どころがなくなってき  
ているという現状も見られた。地域の方はそれに対し残念な気持ちを表していたが、町  
の繁栄につながるため、知れ渡っているのはうれしいと話していた。

パーントゥの由来については、知っている人が多かったが、祭りの意味については知ら  
ずに参加している人がほとんどだった。特に若い参加者はイベントとして楽しんでい  
る人が多い。

毎年取材に来ている記者の方によると、昔は屋根にのって逃げる人がたくさんいた  
が、危ないから禁止になった。また、日程は公表されず、パーントゥ・プナハの前に行  
うミーピツナを見てわかる。

昔は祭りが始まる前のパーントゥに泥を塗る様式も撮影できたが、無形文化財に登録  
されてからは、撮影ができなくなった。

#### V. 考察

今回、宮古島市島尻地区のパーントゥについて現地調査を行った。そこで、パーントゥに

参加していた、地域の方から他県の方まで幅広く意見を聞くことが出来た。その結果、世代別に次のような意見が多く挙げられた。高齢者からは、時代の変化かもしれないがパーントゥを行う環境が変化した気がする。泥のにおいもあまり臭くなくなった気がする。中高年の方からは観光客のトラブルが増えた、若者たちからは、相変わらず怖い臭いなどの意見が多かった。

元々、住んでいる特に中～高齢者の方々だとパーントゥがどのような祭かそこで、どんなことが行われているか、どんな意味を持つのか知っている人は多い。だが、若い世代になると、この祭りがどのような意味を持っているか知っている人と答えた人は、8人中1人と少なく一部の中高生は、一つのイベントとして楽しんでいると答えてくれた。また、観光客とのトラブルや苦情も多かったため開催日の公表をぎりぎりにする、PRの抑制など注意喚起等の対策を行っているが、一部の観光客からはこんなにも汚れるとは思っていなかった、追いかけて嫌だった等の意見もあった。ユネスコに登録されたため、次年度は今以上にたくさんの人たちが来る可能性がありトラブルも増加する可能性があるのではないか。今回の調査を行ったうえで、以上の問題を早急に解決することは大変困難であると考えている。そのため、これからもお互いに共存していくにはどうしたらよいかを考えていくとともに、今後の一つの課題としていきたい。

## VI. 終わりに

実際に現場に足を運び、伝統行事であるパーントゥについて学ぶことができた。現地の方や観光客の方にインタビュー調査をすることで実際にどのような状況にあるのかを知ることができた。また、宮古島出身の二人が様々な手助けをしてくれたおかげで、実際にパーントゥに参加することでよりスムーズに調べることができインタビューを受けてくださったかたも快く答えてくれたおかげで、より調査が充実してできたと感じる。この場を借りて、深く感謝申し上げます。

## VII. 参考文献、調査協力

- 国選択無形民俗文化財記録作成『島尻パーントゥ調査報告書』  
「パーントゥの行動」平良新亮 「仮面神祭祀 パーントゥ・プナハについて」本永清
- ウィキペディア フリー百科辞典「パーントゥ」
- Okinawa style magazine うるま 2005 December No.93「宮古パーントゥ」
- 日本の神様辞典「パーントゥ」
- DEE Okinawa「宮古島島尻地区の奇祭パーントゥ」
- 美ら島物語「泥だらけの来訪神 パーントゥ・プナハ」取材：つじえいこ

## VIII. 指導教員コメント

調査に同行させてもらったが、皆熱心に問題意識をしっかり持ってインタビューを行い、

祭りに参加していたことが印象的でした。

地元出身の学生が中心となることによって、祭りに参加することもでき、貴重な体験もすることができた。また、多くの人にインタビューを行うこともできました。

2年生の調査報告としては十分な出来であり、よく頑張ったと思います。引き続き、様々な地方の祭りや行事に興味を持ち参与観察をしてほしいと思います。

(宮城能彦)